

「神のことをおもう」

～みこころが天で行われるように地でも行われるように～ マルコ 13: 44~48

『それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日の後によみがえらなければならないと、弟子たちに教え始められた。しかも、はっきりとこの事がら話された。するとペテロは、イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。しかし、イエスは振り向いて、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた。「下がれ。サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」』(マル 8: 31~33)

ペテロにとってそれまでのイエス様の姿はあり得ない姿でした。その上、イエス様が十字架に架かるなんてことを言い出し、困ったことでした。この「いさめた」という言葉には深い意味があります。

『「下がれ。サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」』(8:33)

ここに出てくる「神のこと」という言葉の原語は「ターバル」といい、これはその後に出てくる「人のこと」と同じ言葉が使われています。そしてこれには「神の言葉」と「感染病・伝染病」という意味があります。つまり、同じ言語が使われているのに、人が使う言葉は「病」として扱われているのです。要するにペテロがイエスをいさめたその言葉は、神の言葉と同じ権威があるにも関わらず、「病」であり「感染病」であると語られているのです。私達に与えられている「ことば」は、「神のことば」と同じ権威のある「ことば」を委ねられています。みなさんはそのことを知っていますか？

『それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日の後によみがえらなければならないと、弟子たちに教え始められた。』(8:31)

「よみがえらなければならない」・・・これは「クーム」という原語が使われており、カインとアベルの罪である、嫉妬から兄が弟に襲い掛かって殺すという言葉と同じものが使われています。イエスが「殺されなければならない」と言われたその理由は、アダムとイヴから継承されたカインの罪、「原罪」の為だという事を表しています。イエス様の十字架は、旧約聖書にまで遡る計画であり、自分の罪を認めない罪（原罪）によって、イエスは殺されなければならないと言われたということなのです。

『しかも、はっきりとこの事がら話された。するとペテロは、イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。』(8:32)

「わきにお連れして」(ラーカハ)は、エデンの園に人を連れて行って入れ、ここを管理せよと言われたものと同じものが使われています。また「いさめ」(ガーアル)は、ペテロがイエス様をいさめたものと、イエス様がペテロを叱ったものとわざわざ同じ言葉が使われています。そしてこれは、ヨセフの夢のあと、父がヨセフをいさめたと同じ原語でもあり、父はヨセフの夢の事を心にとめたとあります。つまりイエス様は、ペテロがいさめた言葉をつかって、ペテロをいさめたのであり、「心のとめた」ということから、感情的に怒ったのではないことがわかります。

『しかし、イエスは振り向いて、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた。「下がれ。サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」』(8:33)

「見ながら」(ナーバト)は、アブラハムに「天を見なさい」と言った言葉と同じものが使われています。「見ながら」「叱った」・・・いさめたペテロをもう一度いさめ、そのペテロに「下がれサタン」ともう一度エデンをまかせようとしたことがわかります。そしてこの「下がれ」(スール)には「覆いを取り眺める」という言葉が使われ

ており、ノアが、この地のすべてが一掃された後、地を眺めた時のことを言っています。つまり、これは「神は天を見て地を見ていた」ということであり、ペテロのようにいさめるような者であっても、エデンの園を任せ、再興を教会に任せたとしたことなでもあります。そして、これらのことは「神の御心が天でも地でも行われる」にかかっているのです。「神の御心が天でも地でも行われる」これこそノアの箱舟のことです。

■ 神の御心

この世の中、私たちは「人のこと」に囚われ、伝染病のような病にかかっています。しかし、神は、ノアの箱舟を用意しています。私たちはまず、自分自身にエデンの園を任されていることを知る必要があります。だから「下がれ」・・・もう一度「覆いを取って見よ」と言われています。今起こっていること、あなたは本当にわかっていますか？ 私たちは分かっているのです。私達には死が向かってきています。イエス様は「死」が何かを知っていました。だから正しく判断できました。しかし、ペテロや周りは死の意味を知らなかったのだからわかりませんでした。ズレているのです。ズレた目線(嫉妬・いなぎやいい)、それこそが「病」です。そんな時に、ノアの箱舟に入り、覆いを取れと言われているのに、それをしないので、私たちは悟れません。目の前の問題に慌てふためき、右往左往するのです。そんな時、あなたは神のことを思いますか？ 人のことを思いますか？ ノアにとって箱舟を作ることは屈辱だったはずですが、神を信じ従いました。このことを通して、旧約の時代のアブラハム・イサク・ヤコブの神が今も変わらず働いていてあなたにもいることを伝えられているのです。ペテロはこのあとわかりたいと願ったのでわかりました。今はぼんやりしていても、いずれわかる時が来ます。わからなくていいのです。だから、人は関係なく比較する必要もありません。今、私たちは船を造っています。人のおろかさによって大洪水が起こりましたが、神様は大地を見せ、再び地を与えました。このように神は、下がれと言いながら覆いをとるように伝えて、いわさめながら、大地を与えられ、見せられる方なのです。

■ 天にも地にも神のことが！

私達にとって今は点でも砂の数ほど神の計画があります。人々の憎しみや、死はありますが、憎しみがイエス様の死と復活によって、解決されます。そしてカインとアベルの罪の時には十字架がもう計画されていました。アブラムの愚かさのうえに、祝福がありアブラハムとなったように、あなたにもあります。しかし、2あなたの心のことが天のことにならないとあなたに奇跡は起こりません。だから、まず人の目で量ることを止めなければなりません。私たちは、神の計画を人の方法でやろうとしますが、自分の計画は違います。イエス様の十字架の計画は地の底辺になって死ぬことでした。そしてイエス様は弟子に「ついてこれるか？」そう問われました。でも人は「この中で私の盃と一緒に飲むもの、それも天の父が選ぶ」そういうことが願えません。神のことを思うというのは、どんなことがあっても必ずその後には十字架がくるのです。神のことを思うか、人のことを思うか。私たちは選ばなければなりません。そして神の一番の計画は、あなた自身が変ることです。あなたが祈れば変わります。私たちの覆いを取り、神の計画にゆだね、御心が天で行われるように地でも行われることを願って行っていきましょう。

(要約者:岩崎 祥誉)

(2022年 8月7日)